

おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

11

2000.6 Summer



▲ 受賞報告を行う武田会長



▲ 模範演技の披露

受賞記念祝賀会
H12.2.24
(新居浜市リーガロイヤルホテル)



▲ お祝のスピーチをする杉葉子さん



▲ 受賞の賞状とタテ、左の二点は自治大臣賞受賞により贈られた新居浜市長表彰の賞状と記念品

地域づくり団体自治大臣表彰を受ける

特集

1 日本のお手玉の会
自治大臣表彰

1~2

2 サンデーエゴ
民族祭に参加

3

3 「お手玉」定着
二度目のロス遠征

4

● 第一回

指導者養成講座開く …… 5

● 新顧問紹介

…………… 5

● お手玉を活かし

活躍する高校生 …… 6

● 会の歩み

…………… 7

● お手玉グッズ勢揃い

…………… 8

● 第9回大会案内

…………… 8

栄えある自治大臣表彰を受賞

平成11年度の「地域づくり団体」として

会員・支部・関係協力者（団体・企業）の皆様にご心から感謝を申し上げます。



▲ 187人の参加で祝賀会



▲ なごやかに祝う

自治大臣表彰を受賞したのに伴い、日本のお手玉の会に対して、平成十二年一月十五日、新潟市の伊藤武志市長から表彰状を受賞しました。副賞には、透明なメタクリル樹脂にお手玉二個を埋め込んだ、記念のミニメントをいただきました。

新潟市長から表彰状と 記念のミニメント

地域の活性化に顕著な業績を上げた、地方自治体や地域づくり団体に對する、平成十一年度地域づくり自治大臣表彰が昨年末に決まり、日本のお手玉の会が「地域づくり団体自治大臣表彰」に選ばれました。これは、個性豊かな魅力的な地域づくりに積極的に関与し、住民主体の活動を行う地域づくり団体を自治大臣が顕彰し、その功績をたたえることにより、地域づくりのさらなる発展を期するものです。日本のお手玉の会の活動が、この趣旨にかなった団体として受賞したものです。表彰式は、平成十二年一月十四日、東京都千代田区の麹町会館で行われ、武田会長と宮中副会長が出席し、保利耕輔自治大臣から表彰状と盾をいただきました。

このたびの受賞は、昭和六三年に純愛会アメニティ倶楽部がはじめたお手玉遊びの普及活動が、日本のお手玉の会へと引き継がれ、一〇年余にわたってつづけられてきました。新潟市を中心にした活動から、日本全国さらには海外にまで活動の輪が広がっています。この実績が認められたものです。

これまでの活動には、日本のお手玉の会の会員や支部のご支援はもとより、新潟市の市民のみならず、企業、団体のご協力、ご支援を忘れることができません。この受賞を喜び合うとともに、これを契機に初心に戻えり、お手玉遊びを通じて「手から心へ、温もりを届ける」活動を、地道に続けて行くことが大切です。

会員の皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

海外から杉葉子さん、坂井さんも参加

自治大臣表彰を記念し祝賀会を開く お世話になった一八七人が参加して祝う

自治大臣表彰の受賞を記念して、日本のお手玉の会と祝賀会実行委員会の主催で、平成十二年二月二十四日、リーガロイヤルホテル新潟市で「地域づくり団体自治大臣表彰受賞記念祝賀会」を開催しました。

大会には、日ごろ日本のお手玉の会の活動にご尽力、ご協力いただいている方々にご案内しましたところ、日本国内はもとより海外からのご参加を含めて一八七人のご参加をいただきました。

海外からは、ロス在住の杉葉子顧問、サンディエゴ支部の坂井恭子マネージャーが参加してくれました。国内は、新潟市長をはじめ、県会議員や市会議員の皆様、全国お手玉遊び大会にご協力いただいている新潟市内の二三のボランティア団体



祝賀会でお祝いの言葉をのべる新潟市長



アトラクションで津軽三味線の高崎裕士さん

や企業の代表の方々、日本のお手玉の会の神戸支部の皆様、そのほか、静岡、岡山、大牟田、松山、大洲、川之江、伊予三島からお集まりくださいました。祝賀会は、日本のお手玉の会の武田会長が、主催者を代表して、受賞にいたるまでの経過と、ご協力に対するお礼と、今後のご支援をお願いして閉会しました。つづいて、VTRで「日本のお手玉の会の歩み」を紹介しました。来賓祝辞では、伊藤武志新潟市長が、平成四年以来のお手玉の普及活動をたたえるお話をいただきました。つづいて、顧問の杉葉子様が、「愛媛は祖父母の出身地。この地から発信のお手玉の普及活動に携わること、祖先からの因縁を感じる。これからも、アメリカでお手玉の普及活動を応援したい」とのあいさつがありました。

お手玉教室、高校生に大人気…「日本が大好き」になった!!

サンディエゴ民族祭に参加



さすがの民族祭、多彩です。

昨年九月二十五日、二十六日の両日、アメリカ西海岸メキシコとの国境に近い街、サンディエゴ。街から少し離れたところエルカホンで第一七四日の民族祭が開催されました。

この民族祭は主に発展途上国、四ヶ国が参加し、約七万人の人で賑わいました。

日本のお手玉の会サンディエゴ支部（昨年七月に設立）の招きで本部から四人が出掛けて行きました。

「ジャパニーズ」というブースが与えられました。

① 食べ物 手作りの日本食を売る。日本語学校の先生が担当。

② お手玉関連品物の販売と即売。

③ お手玉の演技。

食べ物、のり巻きの中身は、カニマゴゴ、アボガド、卵。小さなトレイに二つ入って一・五ドルで大人気です。お手玉関連の商品では、玉ちゃんウチワードル。もちろんお手玉がアツノという間に品切れになりました。子供のお小遣いが大体一ドルです。

子供達はお手玉をみるとパッと



▼▲ お手玉グッズ大人気



顔を輝かせ「ハキサキ」といって一個のお手玉を足で蹴って遊びはじめます。本部から参加した四人とラ、ホヤから桜井カツ子さんも加わって二個片手ゆり、三個ゆりを並んでゆりはじめると、いつの間にか、回りはいっぴいになっていました。

翌日の舞台では、日本語学校の生徒さんによる日本語、東京音頭、炭坑節、そしてアメリカでもダンゴ三兄弟。また、日本の歌では「ズイズイズコロロシ」や「故郷」です。住んでいる場所はアメリカでも彼等の心の中のみならず日本は、今も美しく清らかなあたたかいものなのです。

各国の遊びや民俗舞踊などを見学に行きました。見つけました。ジャックスをしている子供を。十歳位の男の子でしたが、言葉は通じなくても、いろいろな遊び方を教えてくれました。

民族祭の中で私の心を大きく揺さぶった場面に出会いました。この祭りには町中の若んが集まってくるそうですが、家族連れ、お友達と、そして身体障害者の方は酸素ボンベを抱えながら一人で来られています。しかもたくさんの方々です。先刻までお手玉遊びのやんちゃ坊や、障害者の人を見かけるのと、なんの躊躇もなく、手を差しのべに行きます。ほんとうに自然にごく日常的に……健康者と障害者が同じレベルで生活ができています。また白人の坊やと黒人の坊やが仲よく遊びに来ました。二人ともお手玉がとても気に入って夢中になってしまっています。私はここでとんでもない失敗をしてしまいました。この坊や達、実は兄弟だったのです。このお話はまたの機会にします。

ハイスクールを訪問しました。日本語教室の福田光代先生のクラスです。あまりにも楽しそうな授業だったのでしよう。となりのクラスの先生が偵察にこられたのです。先生の目に映った生徒さんの活き活きした姿にびっくり……、「私のクラスにも是非来てくださーい。十五分いや十分でもいいです」そして次から次へとお手玉遊びです。とうとう六クラスも回ることになりました。ヒルトップ高校からモリスス高校へとお手玉の出張教室と相成りました。

帰国してから高校の生徒さんから四〇道にも及ぶ手紙をいただきました。「お手玉を通して日本という国が近くに感じられるようになった」とか、そして「日本が好きなようになった」とか、また余命半年といわれている男子生徒さんからは、「いじめや悲しいことがあったが、お手玉を手に触れた時から、自分の人生を少し進にも及ぶ手紙をいただきました。」

「お手玉を通して日本という国が近くに感じられるようになった」とか、そして「日本が好きなようになった」とか、また余命半年といわれている男子生徒さんからは、「いじめや悲しいことがあったが、お手玉を手に触れた時から、自分の人生を少し



お手玉を持って楽しいな



お手玉遊びに類似したジャックスの遊び方を教えていただく



ヒルトップ高校でのお手玉教室



▲ お手玉ブースの面々
左はしが桜井京子さん、右はしがヒルマン愛子さん

異なった角度からみられるようになった……」等々。

日本の伝統文化であるお手玉が外国の生徒さんたちの心にまで届いたことの身のふるえるようなよるこび……。言葉や国、肌の色が異なっても世界中に伝えていきたいと思いつながら、胸の中がホカホカしながら帰国致しました。

日本のお手玉の会副会長
藤田石根

『お手玉』が定着した二度目のロス遠征

熱心にお手玉を縫う金髪の少女たち

日本のお手玉の会は、平成一年一月二七日、二八日の両日、日米ネットワーク社の主催で、アメリカのロサンゼルス市で行われた「第20回US-Japan・エキスポ88」に参加しました。日本のお手玉の会としては二年連続の参加で、これが七度目の海外遠征となります。当会からは、本部および新居浜市、東京支部、大牟田市、呉市などから会員二〇人が参加しました。

「ジャパン・エキスポ」は、日本の古きよき伝統文化を、アメリカの方々やアメリカに住む日本人に紹介すると同時に、日本企業の製品の紹介や各地の物産を展示、即売するイベントです。会場のロサンゼルス市郊外のコンベンションセンターには、七万人を超える入場者が訪れ、おおいににぎわいました。

日本のお手玉の会のコーナーは、「世界と日本のお手玉展示」「お手玉作り教室」「お手玉遊び教室」「お手玉グッズの販売」の四つのゾーンに分けて入場者を迎えました。



▲ 日本のお手玉の会の面々



▲ お手玉のブース



▲ どんなもんだい



▲ 熱心にお手玉を縫う



▲ お手玉に興じる参加者



▲ お手玉に興じる参加者

二回目ということもあって、開場から終了まで、一日中、予想を超える参加者があり人並みの切れることがありませんでした。

男性ガオリジナルの技を笑顔で披露

「お手玉展示」には、世界と日本の珍しいお手玉を展示しました。大人から子どもまで、アメリカ人、日系人を問わず、各国の人たちが珍しそうに眺め、それぞれのお手玉の造りを褒められました。

「作り方教室」は、オープンと同時に人が詰めかけ、たちまち作業台は満席になり、終日、席が埋まっているという盛況ぶりでした。前回の経験を活かして、材料を増やして持っていたもの、初日で大量に使い果たす結果となり、二日目は現地材料調達して対応することになりました。

とくに、子どもたちの関心が高く、金髪の少女が一心にお手玉作りに挑戦する姿が印象的でした。お母さんも、子どもと一緒に

て、自分用のお手玉づくりに取り組んでいました。

「遊び教室」は、子どもに混じって、たくさんのお大人たちが集まりました。とくに、男性の大人は、気軽に参加し、お手玉の投げ上げ、フィニッシュなど、自分なりの技を披露し、周りの人々を楽しませながら、自分も楽しむという光景が多く見られました。

子どもたちには、会員がやさしく指導しました。子どもたちは、笑顔でなんどもなんども繰り返し、少しずつ上達するたびに歓声をあげていました。そして、「来年もまた来てください。それまでに練習をしておきます。上達ぶりを見てください」と話してくれました。

「グッズの販売」では、お手玉、お手玉キット、巾着袋、玉ちゃんTシャツなどに人気が集まりました。また、写真絵本「お手玉」、おびあきのお手玉」など、回書を買いたい目録人、外国人のお客もいました。

顧問の杉葉子嬢など、著名人の訪問も

会場には、ロス在住で当会顧問の杉葉子嬢、南方リフォルニア日

系商工会議所会頭の高瀬半彦嬢、「羅府前報」編集長の長島幸和嬢、そのほか、たくさんのお著名人が訪ねてくれました。また、昨年訪ねてくださった方々も多数訪れ、一年ぶりの再会を喜び合いました。

「こんなに上手になりました」と、一年間の練習の成果を会員に披露する子どもたちもいて、心こもった交流を楽しみました。また、日本のお手玉の会のロサンゼルス支部の結成を望む声も強く、ロサンゼルス市で手芸店を営む本原静子嬢を中心に、支部結成の準備をお願いしました。

温かいおにぎりや赤飯の差し入れ

昼食に出かけることもできない盛況ぶりでしたが、二日とも、温かい差し入れがあり、コーナーの片隅で、交代で心のこもった昼食をいただきました。一日目は、サンアイエゴ支部マネージャーの、ヒルマン愛子嬢が、ご主人と一緒に会場を訪れ、おにぎり、漬け物など日本食を差し入れてくれました。

二日目は、現地のお手玉ファンのKEIKO・O・TAPPUSさんと、TOMOKO・POLITISさんのお二人が、それぞれ手作りの赤飯、漬け物、ケーキやタッキーを届けてくれました。

二度目のエキスポ参加も、たくさんの方々にお集まりいただき、ロス支部の結成にも確かな手応えを感じることができ、大きな成果を収めることができました。

ラスベガスやグランドキャニオンへの観光旅行も

エキスポのほかに、今回は、魅力ある観光にも出かけ、乗心に返って観光も楽しめました。ロサンゼルスでは、ユニバーサル・スタジオを見学して回り、アメリカ映画で見たシーンを思い浮かべました。また、ラスベガスにも出かけ、市内観光やアイナシー、カジノを楽しみました。

ラスベガスからグランドキャニオンに飛び、神秘的でスケールの大きい新緑絶景の光景を、心ゆくまで堪能しました。



▲ 会場にて

福島や宮崎から参加して講習会

第一回お手玉遊び

指導者養成講習会

お手玉遊びの第一回指導者養成講習会を、平成二十二年三月二十三日火曜日に日本のお手玉の会本部で開催しました。講習会には、福島県、兵庫県、宮崎県、高知県など県外から七人と、川之江市、今治市、新居浜市から一八人の二十五人が参加しました。

この講習会は、これまで全国の会員や支部から、お手玉の普及活動をすすめる上で、指導者を養成して欲しい、との要望に答えたものです。参加者は、お手玉の会の会員や支部の役員、新たに支部を結成する地区の代表者、特別養護老人ホームの職員など福祉関係者、ボランティアの活動家などでした。

カリキニラムは、講義の「いまなぜお手玉遊びか」「お手玉の歴史」「お手玉の効用」と、実技指導の「全国お手玉遊び大会の競技内容」「投げ玉」「振り玉」「寄せ玉」「拾い玉」「お手玉によるコミュニケーション」「寄せ玉」「技量認定審査」「競技審判の要領」などの指導が行われました。一日中、真剣な中にも、笑顔の絶えない、にぎやかな講習会となりました。

参加者は、次のような感想を話しています。「普及活動の裏付けが理解でき、お手玉遊びの大切さや意義が



したい(今治・石川)など。

なかでも、福島県田村郡三春町から参加した短大生の佐藤英恵さんは、四日間滞在してお手玉の練習をしましたが、次のように感想を話しています。「来年、福島で開催される『うつくしま未来博』で、お手玉遊びを取り上げます。そこで、お手玉は初めてでしたが代表で参加しました。何もできなかった私が、三つゆりができるようになり、自分自身のことながら感動しちやいました。初めての四国でしたが、一生忘れられない旅になりました。感謝しています」。

今後、年に二、三回の頻度で指導者養成講習会を開催することになります。受講ご希望の方はご連絡ください。

「おもいっきりテレビ」で放映

「なるほどなっとく」「お手玉でボケ防止」

昼間の人気番組、日本テレビの「おもいっきりテレビ」で、お手玉遊びが取り上げられました。平成二十二年二月二日の「なるほどなっとく」「お手玉でボケ防止」として、お手玉遊びが脳を刺激し、脳発力、判断力など運動神経や脳の活性化に効果があることを、実験を通じて証明しました。

これは、日本のお手玉の会の本部および東京県支部が、日本テレビの取材に協力して制作されたものです。東京支部(小泉珠子会長)では、三人の主婦にお手玉を指導しました。指導を受けた三人の主婦について、まずβ波の測定、動体視力、反射神経、集中力、脳波(β波)などの測定や検査を行った上で、毎日一五分、お手玉遊び(三つゆり)を一週間続けた後、最初と同じ検査・測定

よく理解できた。参加してよかった。全部VTRに収録しました」(神戸・北村様)、「お手玉遊びを指導する上で、教え方のノウハウを学ぶことができた、これからの活動に自信が持てるようになった」(高千穂・伊藤様)、「四月から介護保険がスタートするのに合わせて、デイサービスや福祉施設での健康管理にお手玉を採用

を実施しました。

その結果は、すべての検査・測定で、三人ともに改善・向上が認められ、専門医のコメントでも、「お手玉遊びの効果」が証明されました。

日本テレビのスタッフが、日本のお手玉の会の本部、お手玉およびお手玉遊びに関する基礎部分の取材と、みどり園保育所(新居浜市喜元池)で園児によるお手玉遊びと、特別養護老人ホーム・アツカ園(同市清住町)でお手玉遊びによるお手玉遊びの取材をしました。

このテレビ番組のVTR(一五分)を、本部で保管しています。ご利用をご希望の方はご連絡ください。貸出いたします。

日本お手玉の会 新顧問紹介



杉 葉子(すぎ・ようこ)

ロサンゼルス在住の女優。

- ・東京生まれ。上海第二高等女学校を卒業。上海で終戦を迎える。
- ・東京に引き揚げた後、東宝第2回ニューフェイスとして東宝に入社。
- ・1949年(昭和24年)映画「青い山脈」のヒロイン・女学生

の寺澤新子役としてデビュー。その後、「石中先生行状記」、「青春会議」、「丘は花ざかり」、「三等重役」、「夫婦」など70本の映画に出演。石坂洋次郎原作の映画にたくさん出演している。

この間、テレビ、ラジオ、舞台でも活躍する一方、ドイツに4年半、台湾に1年住んだ経験を生かして、執筆活動も行う。

・1977年(昭和52年)アメリカに移住。ホテル・ニューオータニ・ロサンゼルスで日本の伝統文化や年中行事の紹介などを担当し、日本文化の普及、交流に力を尽くす。その活躍振りは、賞賛を集めている。現在に至る。

アメリカでも数本の映画に出演。

・1999年(平成11年)映画「青い山脈」の公開50周年記念パーティを開く。



坂井 弘孝(さかい・ひろたか)

私は大手都市銀行の行員でしたが50歳を過ぎてから他の企業に派遣され、そこで定年を迎えました。

銀行員時代はSeven to Eleven どころか文字どおり深夜に帰宅することが当たり前前の企業戦士で、自分の生活を省みる暇は全く有りませんでした。

第二の職場に移ってから時間に少しゆとりが出来たのを機に自分の今後の生活を考えるようになりました。そして英語や日本語教授法の勉強を始めました。日本語教授法の資格を得てからは、仕事の合間に在日外国人に日本語を教えるようになりました。それからは企業中心だった友人関係は大きく変わり、多くの世界中の人と友達になることができました。

この頃 私の趣味のひとつである囲碁を通じ(附)日本棋院よりアメリカサンディエゴでの囲碁普及の誘いがあり二つ返事で応諾しました。

現在はサンディエゴ大学で日本語を教えたり書道などのワークショップをして学生と交流します。また囲碁入門指導会や囲碁トーナメントを開催するなどして一年の半分宛を日本とアメリカで住み分けています。

今年の4月から始まった介護保険に適合する会社をスタートさせたので今までより何かと忙しくなりましたが、出来るだけこのペースは続けていきたいと思っています。

今回日本のお手玉の会から顧問のご依頼があり、サンディエゴにお手玉クラブを組織したり、ロサンゼルスのお手伝いをするなど、この会の発展に些かも寄与出来たらと思ってお引き受けしました。

囲碁やお手玉遊びを通じ世界中に友好の輪が広がることを期待しています。

✿✿✿ 拍手玉を活かし活躍する高校生 ✿✿✿

平成一一年度 愛媛県高等学校国際教育研究発表会
A意見発表の部V最優秀賞受賞

「拍手玉が結ぶ世界」

— 新居浜から世界へ発信 —

新居浜高等学校二年 渡邊 順子

「順ちゃん、国際研究部に入らないう？」と、友人に誘われたとき、最初は「何だか難しそうだなあ」と気が進みませんでした。そんな私に彼女は、今年の国際教育リーダー研修会での出来事を話してくれました。「ペルーから来た女の子に日本のお手玉をプレゼントしたの。そしたらその子も同じような遊びをしたことがあって、すごく話が盛り上がったの。いっしょにお手玉遊びもしたのよ。」と。たった一個のお手玉をきっかけに外国の人と仲良くなれる、そう思うと、私も是非そんな体験をしてみたいとなって、入部を決めたのです。

また、先日私たちの部の顧問の先生が、ボストンのある中学校を訪れた時の話をして下さいました。現在のコンピュータによる高度情報化社会では、アメリカの子供たちの間でもスーパーファミコンが大流行しています。だから先生が、「Do you know Nintendo?と尋ねると、ほとんどの子供たちが、「Oh, yes」と答えたそうです。次に、日本の文化を紹介するために持っていったお手玉を見せ、「Do you know this?と聞いてみると今度は、「No」との答えしか返ってきません。そこでこのように実演してみせると、途端に子供たちの目が輝き、みんな身を乗り出してきてくれたのです。「Yes, yes」と呼びかけると、瞬く間にみんながお手玉を手に取り、夢中になって遊び始めたそうです。ファミコンに比べるとずっと書体で単純なお手玉ですが、文化の違いを超えてあらゆる人を引

きつける力を持つていたのです。

そんなお手玉の魅力とはいったい何なのでしょう。私たちの町新居浜には、「日本のお手玉の会」の本部があります。昨年度から本校では、地域理解のために、この会のメンバーの方を招待して、お手玉遊びの仕方や、その歴史について教えて頂いています。日本では平安時代に女の子の遊びとして始まり、今日まで伝えられておびとつおさらい」と、お手玉遊び歌を歌いながら教えてもらいました。

そしてお手玉遊びをしながらいろんな話をし、祖母の懐かしさに触れた記憶があります。誰とでもどこでも気軽に遊べて、お互いがうち解け合える、それがお手玉の素晴らしさといろではないでしょうか。そしてこのお手玉という伝統文化を持つている私たちは、本当に幸せだと思います。

では、日本以外の国ではどうでしょうか。お手玉について更に知りたくなった私は、国際研究部の取材として、「日本のお手玉の会」を訪ねてみました。そこには世界の様々なお手玉が展示されていました。会員の方にお話を伺うと、世界の記録ではBC(一〇〇〇年頃)に黒海周辺の遊牧民が遊んだものを起源として、現在でも世界各地三八カ国にお手玉遊びが伝えられているとのことでした。球形のもの、四角いもの、楕状のものなど色も形も素材も異なるお手玉たち。それはまるで私たちの皮膚や髪の色が違いうように様々な外見をしています。人と人との心をつなぎ子供たちを楽しませてきたことでは、みんな同じお手玉なのですね。異文化理解という難しいことのように感じますが、こうしている人のお手玉を見てみると、違いを認めながらお互いを理解し合うことも可能だと思えてくるのです。

実際に「日本のお手玉の会」では、これまで

何度も海外で拍手玉遊びの紹介を行い、ハワイやロサンゼルスでは拍手玉大会も開催して、国際親善に努められてきました。どこへ行っても拍手玉の笑顔にはいつも多くの観客が集まり、言葉の壁を超えた交流ができたそうです。そこで私たちがAEDTの先生が交際されたときに、一緒に拍手玉遊びをしました。ウオーミングアップからはじめて、二つゆり、三つゆり、よせ玉と、楽しい時間を共に過ごしました。でもこの時、まだまだ私たちには分からないことや説明できないことがたくさんあるのにも気付いたのです。国際交流を図るのならば、まず自国の文化をきちんと理解し、正しく伝えたい。それがこの経験を通して私が学んだことでした。

2000年(平成12年)2月17日 木曜日

ホランティア活動が評価され「全国賞」に輝いた。全国賞に輝いたのは、商業系高校のホランティア部だ。この日は、東京から来たスノーボードの大会に出場した。



ホランティア活動が評価され「全国賞」に輝いた。全国賞に輝いたのは、商業系高校のホランティア部だ。この日は、東京から来たスノーボードの大会に出場した。

アメリカの先生 25人が拍手玉を視察 遊び方を体験し交流

フルブライト・メモリアル基金系国教育者招聘プログラムの一行が、平成一一年一月二四日、日本のお手玉の会に視察研修に訪ねてこられました。このプログラムは、アメリカの初等・中等教育に携わる教職員を日本に招聘し、教育関係機関の訪問、教員間の交流を通じて、両国の初等中等教育教員間の相互理解と協力を促進し、教育活動の国際化を図ることを目的としたものです。

一行は、アメリカの初等中等教育に携わる教職員二十五人で、日本のお手玉の会では、拍手玉遊びの普及活動の趣旨や活動の内容の説明を聞くとともに、拍手玉遊び、拍手玉の作り方の実習をしました。

拍手玉遊びは、「手から心へ温もりを届ける」というスローガンのもと、世代交流を図り、子どもたちの心の豊かさを育み、国際交流にも役立っているというところに、大いに興味を示されてきました。作り方、遊び方では、童心に返り「キヤッキヤ」と、生徒たちにも負けないのにはと思われぬ歓声をあげながら、実習を楽しみました。

また、アメリカの先生方が、会が所有しているアメリカのお手玉「ジャックス」を使って遊び方を披露し、文字どおり交流を深めました。視察時間ではありましたが、効果的な視察研修となりました。



[日本のお手玉の会の主な歩み] 平成12年前半



▲荒川区まちや広場館お手玉講習会
(2/6)

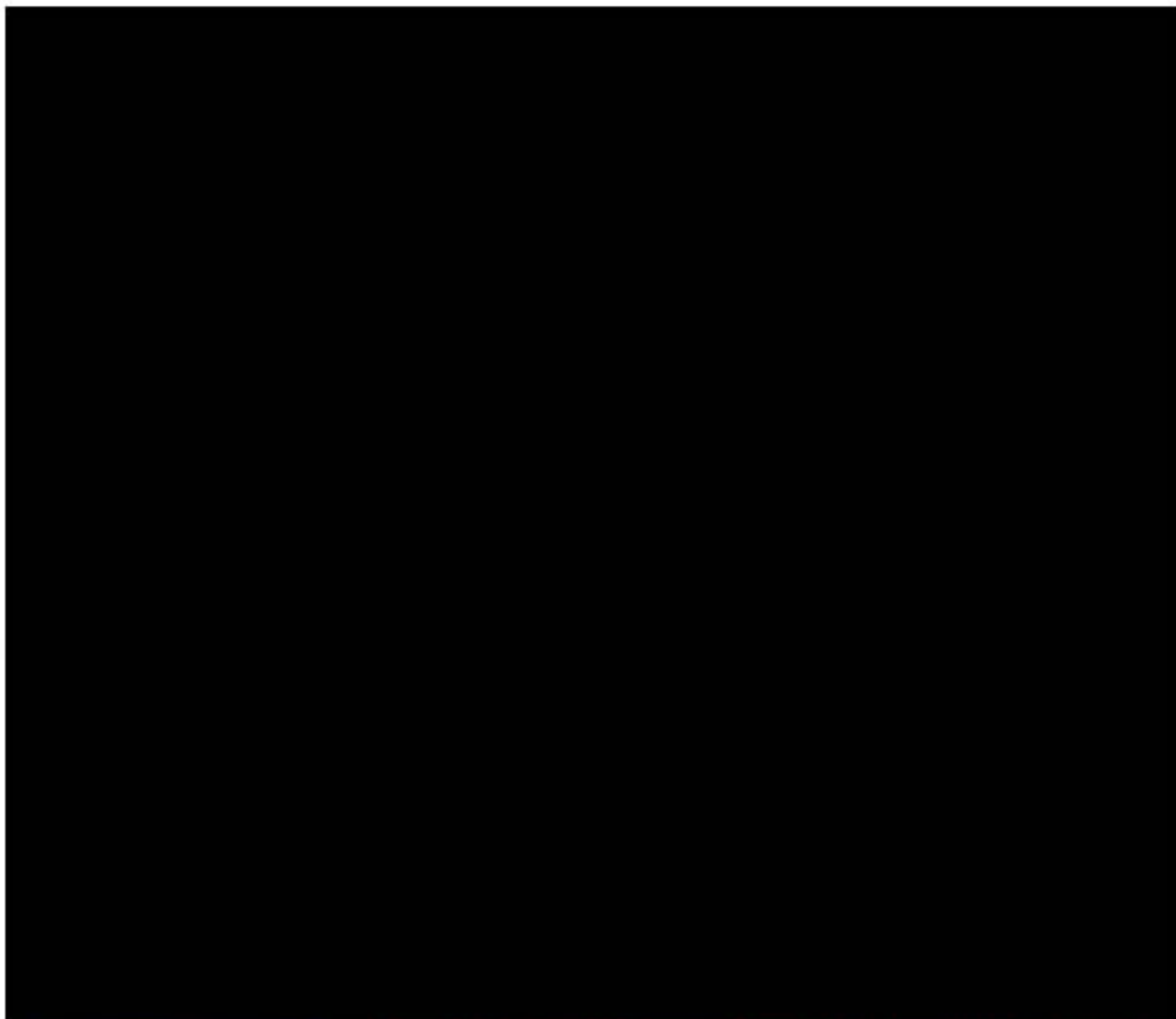


▲呉市五番町小学校のお手玉教室
(3/17)

- | | | | |
|------|--|-------|---|
| 1月8日 | 新居浜市上部児童センター「伝承遊び大会」 | 27日 | えひめ・こどもの城「体験学習」「お手玉遊び」
(松山市) |
| 11日 | 西条市長寿学園講演
新居浜市川東老人センター健康教室 | 3月5日 | 長浜町豊茂公民館研究大会講演
新居浜市中央児童センター「むかしあそび」 |
| 12日 | ハタダ本舗新年祝賀会「お手玉遊び」
(新居浜市) | 11日 | 新居浜市上部児童センター「三世代交流」
「お手玉遊び」 |
| 14日 | 地域づくり団体自治大臣表彰授賞式
(東京都) | 3月13日 | 土居町小富士公民館ミニ・デイ・サービス
「お手玉遊び」 |
| 15日 | NHKラジオ「土曜サロン四国」に登場
(松山市) | 15日 | 宇和島経済研究会講演 (宇和島市) |
| 18日 | 西条市長寿学園講演 | 17日 | 呉市五番町小学校お手玉教室 |
| 19日 | 平成12年第1回理事会 (本部) | 28日 | 第1回お手玉遊び指導者養成講習会 (本部) |
| 20日 | 愛媛県福祉医療専門学校、実技指導 (松山市) | 4月1日 | 「松山西支部」が誕生 |
| 21日 | ダスキン㈱中四国新年会「お手玉遊び」
(新居浜市) | 2日 | 土居町婦人会総会「お手玉遊び」 |
| 22日 | NHKラジオ「土曜サロン四国」に登場
(松山市) | 8日 | 伊予三島レディースクラブ総会・講演・実技
(伊予三島市) |
| 25日 | 愛媛県福祉医療専門学校、実技指導 (松山市) | 14日 | 青年会議所愛媛ブロック4月公式訪問例会
「お手玉遊び」 (新居浜市) |
| 26日 | 福島県須賀川「うつくしま福島未来博」に備
えて講演 (須賀川市) | 25日 | 第2回理事会 (本部) |
| 2月1日 | 新居浜市大生院保育園「親子伝承遊び大会」
情報誌「おてだま」No.10発行 | 27日 | 三和銀行頭取宅で「なでしこ会」の「世界お
手玉展」 (東京支部；東京倶楽部) |
| 6日 | 荒川区まちや広場館お手玉講演 (東京都) | 29日 | みどり園保育所60周年記念事業に参加 |
| 8日 | 愛媛県高等学校教育研究会家庭科部会講演
(西条市) | 5月8日 | 「淡路花博」の舞台に出演
(本部・神戸支部・徳島支部が合同参加) |
| 15日 | 自治大臣表彰に伴う新居浜市長表彰 | 13日 | 情報誌「おてだま」編集会議 |
| 24日 | 自治大臣表彰受賞記念祝賀会 (新居浜市) | 15日 | NHK札幌放送局ラジオ番組に生電話出演 |
| 26日 | 松山市小野中学校ボランティアグループ・実
技指導 | 20日 | 愛媛レクリエーション協会「第20回大会」打
合せ会 |
| | | 25日 | 「第9回全国お手玉遊び大会」準備委員会 |

「松山西支部」が14番目の誕生

日本のお手玉の会の14番目の支部として、平成12年4月1日、「松山西支部」が誕生。松山市土居田町の白石ヨシエ会長を中心に、10名の会員でスタートしました。よろしくお願いたします。これで、支部は、国内に12、海外に2つ、合計14支部となりました。



第9回全国お手玉遊び大会

と き 平成12年8月27日(日) ところ リーガロイヤルホテル新居浜
9:20~15:30 (愛媛県新居浜市)

内 容

- 競技(参加料-個人戦500円、団体戦1,000円、小学生は無料)
 - 一般の部〔団体戦〕〔個人戦-片手2個・両手3個・両手4個・ジャグリング〕
 - 小学生の部〔団体戦〕〔個人戦-片手2個・両手3個〕
- 技量認定審査〔初段~6段〕
- お手玉遊園地ほか ●お手玉教室〔作り方・遊び方〕
- いろいろな遊びコーナー〔折り紙・竹トンボ・まりつき・竹返し・大道芸ほか〕
- 物産展示販売〔お手玉グッズ・書籍・地場物産ほか〕



発行・編集
日本のお手玉の会 会報編集委員会
(委員長 森 賀 新 雄)
〒792-0811 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14

TEL・FAX/0897-36-0600
E-mail:tamachan@otedama.shikoku.ne.jp
ホームページ
<http://www.shikoku.ne.jp/otedama/>